



〈39〉



最短で結ぶ岡谷道（諏訪道）の整備とともに往来がさかんになった。当時の橋は「大橋」と呼ばれ、諸経費を幕府が負担する「主要街道の橋」と位置付けられていた。

江戸時代中期に橋が架けられ、伊那路と江戸を結んで中馬輸送を支えた街道の橋。伊那路と中山道の下諏訪宿を、

幅三・六呎の板橋だった。一

## 威厳放つ主要街道の橋

九三三（昭和八）年には、長さ六十呎、幅五・五呎のコンクリート橋になった。

橋の入り口には、煙突形で根元が太くなった立体物が置かれた。欄干と袖は、円形の縁取りの中に、角丸の十字模様が大きく抜かれたモダンなデザインだった。

現在の橋は一九九四年に架け替えられ、長さ八八・七呎、幅十二呎。欄干と袖以外は旧橋のデザインを受け継ぎ、小ぶりになった立体物の上には、球が置かれている。

現在でも主要な橋として、多くの人々が行き交う伊那路橋。存在感ある橋の姿に、威厳を感じた。（杢木良）

## 伊那路橋

（箕輪町東箕輪—中箕輪）



中馬輸送を支えた街道の主要の橋、伊那路橋—箕輪町中箕輪で